

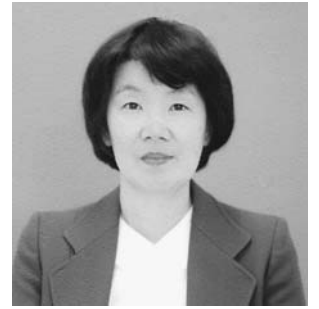


ほつとするね  
緑の府中

# 指導室だより

第 72 号

編集・発行 府中市教育委員会教育部指導室  
〒183-8703 府中市宮西町2-24  
電話 042-335-4063



## 外国語活動について 思うこと

府中市立四谷小学校  
校長 田中文字

学習指導要領の改定に伴い、小学校外国語活動の実施が決まった。実施がある程度は覚悟していたとはいえ、現場教師の戸惑いは大きい。本校でも、この夏季業中に英語研修を実施したが、30時間の研修時間で外国語活動の目標を共通理解するのは容易ではない。

そこで、外国語活動について私見も交えて述べる。先生方の指導に少しでも役立てていただければと願う。

当初、英語活動は、総合的学習の活動事例の一つである国際理解教育の一環として始められた。それが、時代の流れと社会の要請のためか、国際理解教育よりも英語活動そのものに関心が集まってしまった。すでに、一部の学校で始まっている語学教育としての英語活動が参考にされることが多く、その影響も心配される。

改めて、外国語活動の目標を指導要領で確認しておきたい。

外国語を通じて、言語や文化について、体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

(学習指導要領より)

五年生の英語ノートが各国の挨拶の言葉から始まっているのは、外国語の音声に慣れ親しむためである。日本語とは異なる言語の存在を知った後、公用語として最も多く使用されている英語を学んでいく。そして、最終的には、外国人と簡単な英語を使ってコミュニケーションができるようにするのである。

小学校の外国語活動は中学校英語の前倒しではなく、日常会話に必要な言葉や文の音声に慣れる学習なのである。どの教科でも同様であるが、外国語活動の学習目標を子どもたちにも理解させることが大切である。

子どもによっては、特に小学

校高学年の子どもは、音声よりも文字を通してのほうが言語を習得しやすい場合がある。それでも、話せる英語を習得するには、音楽に合わせたり、韻を踏みリズムに合わせたりして発声する学習が有効である。英語は言葉はアクセントで文はイントネーションで聞き取ると言われるからである。

英語を母国語とする人々の間でさえ、挨拶や簡単な会話を交わす間に、相手の言葉に聞き慣れる必要があるという。また、英語は子音が多いためか、電話で数字を聞き取るのも難しいと言う。

外国語活動の注目すべき目標に「コミュニケーション能力の素地を養う」がある。国語科にほぼ同様の学習目標があるが、外国語活動の場合は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が重要となる。相手の立場を考えて話の意図をくみ取ろうとする姿勢が大事。限られた言葉で自分の伝えたいことを

理解してもらおうとする意欲が大事なのである。よって、ALTは当然のこと、教師にも正しい英語を使ってほしいが、児童には完璧な英語でなくても良いから話そうとする態度を奨励してほしい。

極端な話だが、発音の悪い英語でも伝わった時は嬉しいものである。初めて英語に親しむ子どもたちには、この体験こそ大切ではないだろうか。英語でもっと伝えたいと思うことが、学習意欲に繋がる。

たった三年間のアメリカ生活であったが、つたない英語で堂々と話す人々を見て、私の英語コンプレックスはなくなった。黙って何も話さないでいると、誰からも相手にされないことも実感した。それどころか、笑顔で一方的に話を聞いていようものならば、気味悪がれて二度と話かけてはもらえない。話を返さなければコミュニケーションにならないのである。

教師には、学習目標に沿った指導や子どもたちの意欲を喚起する指導を生み出す力量がある。ALTに教師の指導力はない。外国語活動指導の主導権は教師にあることを、忘れてはならないだろう。



新しい教育長が  
就任

府中市教育委員会では、新海功教育長が退任（平成21年7月31日付）され、平成21年9月29日付で、新たに糸満純一郎前教育部長が教育長に、また、教育部長には、酒井泰前副参事兼指導室長が10月1日付で就任されました。



糸満純一郎 教育長

これに伴い教育委員会の構成は、左記の通りになりました。よろしくお願い申し上げます。

| 職名           | 氏名      |
|--------------|---------|
| 委員長          | 久 芳 美恵子 |
| 委員長<br>職務代理者 | 崎 山 弘   |
| 委員           | 谷 合 隆 一 |
| 委員           | 北 島 章 雄 |
| 教育長          | 糸 満 純一郎 |

# 府中市立小学校 陸上記録会

練習の成果を発揮し  
記録に挑戦

- Aブロック（10月15日午後）  
第二小、第五小、第七小  
第九小、小柳小
  - Bブロック（10月9日午後）  
第四小、第六小、第十小  
矢崎小、四谷小、南白糸台小
  - Cブロック（10月15日午前）  
第一小、第八小、新町小  
武蔵台小、住吉小、日新小
  - Dブロック（10月9日午前）  
第三小、若松小、本宿小  
白糸台小、南町小
- 競技種目  
1000メートル走、8000メートル走  
50メートルハードル走、走り幅跳び  
400メートルリレー（学校対抗）

台風18号の影響で日程の一部変更はあったが、府中市民陸上競技場において府中市立小学校陸上記録会が開かれた。

この記録会は、

- ・記録会を通し、各校児童の親睦を図る。
- ・陸上運動に対する意識を高め、陸上運動の技能の向上の一助とする。
- ・指導法の研究の場として活用する。

という目標のもと、市立小学校22校の六年生が参加して行われているものである。今年度は、新型インフルエンザ等の流行のため、残念ながら参加できなかった学校もあった。



開会式 本宿小 川内清文校長の挨拶

9日の午前の部では、開会式の中で本宿小学校川内清文校長より「三小、白糸台小、若松小、南町小、本宿小のみなさん、おはようございます。」

台風一過、さわやかな秋晴れになりました。昨日の台風、そして新型インフルエンザの流行と今日の日を迎えるまで心配しましたが、こうしてみんな元気に集まることができました。新型インフルエンザ感染などで、十分な練習ができなかった友達がいるかもしれませんが、今日これまでの練習の成果を十分に発揮してください。

二つがんばって欲しいことをお話しします。

一つは、最後まであきらめずに全力で競技してください。ゴールを走り抜ける気持ちで、自分の持てる力を100%発揮してください。

二つは、こうして他校の友達と一緒に競技する機会は少ないと思います。同じ市内の友達としてがんばっている友達には、温かい言葉をかけてください。皆さんの活躍を期待しています。」という励ましの言葉があった。

続いて8000メートル走、走り幅跳び、1000メートル走、50メートルハードル走の4種目に分かれ、それぞれ全力を出し切って競技

最後は各学校の代表選手による学校対抗400メートルリレーが行われ、白熱したレースに会場は大変盛り上がり、終了した。六年生にとっては、素晴らしい競技場で他校の選手と競うことにより自分の目標の記録に挑戦し、大変よい思い出となった。



男子50メートルハードル走



東京学芸大学陸上競技部学生による模範競技



わが校の特色ある教育 NO. 38

# 豊かな歴史と たくましい多磨っ子の 府中四小

～体育の研究を通して～

府中市立府中第四小学校

副校長 永井 秀二

## 体育科研究の歴史

本校は、体育に関する研究をその時代の要所所で実践しながら、教育目標である「みずからきりひらく たまっこ」を指してきた。その淵源の一つには、創立100周年にあたる昭和48年度に取り組んだ研究があげられる。それ以後に取り組んだ体育や健康に関する研究としては、昭和50年度、昭和54年度、昭和61年度、平成12年度に発表会を行いながら実践し、積み重ねられてきている。

## 受け継がれてきた伝統



四小ボール体操

創立100周年の研究紀要を紐解くと、広く健康という観点からの運動能力等の調査を元に運動分析を行い、これまでに行われてきた先達の研究の成果は、教育環境・設備・内容に渡り、例えば、「一人一個」ずつ所有するドッジボール、それを保管する「ボール棚」、ボールを用いた「ボール体操」、「独自の固定遊具」など様々な場面で継承されている。

・信条、精神：教育目標に表されている「たくましい子、まっすぐな子、こころやさしい子」  
**今年度の研究**  
《研究の経過》  
研究を始めるにあたり、児童の実態調査を行った。その結果  
①体を動かすことが好きである。  
②学習のめあてがはっきりすると意欲的に取り組む。  
③学習の中で学び合う様子が見られる。  
④できるかどうかははっきりする運動に意欲的に取り組めない。  
⑤勝敗にこだわらない。  
⑥体の動かし方がイメージできない。  
⑦この課題が見られることが明らかになった。そこで教師の願いとして、  
⑧めあてをもって意欲的に取り組んでほしい。  
⑨運動の楽しさを感じてほしい。  
⑩児童相互でアドバイスし合い、協力して学習してほしい。  
という3点にまとめられた。

児童の実態や教師の願い、本校の教育目標から研究主題を「すすんで運動に取り組む児童の育成」と設定した。そして、平成20年度は、  
①学習過程の工夫  
②提示する運動の工夫  
③場の設定の工夫  
④学習資料の工夫  
の4点の手だてにより、児童は運動する楽しさを味わい、すすんで運動に取り組むようになる。この仮説を立て実践を重ねた。  
《今年度の研究》  
今年度はさらに、「すすんで運動に取り組む児童の育成」に向けて、学習過程の工夫に焦点をあて、単元を《提示》《工夫》《共有》の3段階にステージを分けて研究を進めた。  
第1ステージは、《提示》の時間。ここで児童は、教師の提示したもとなる動き、初めの動きを経験する。教師は、児童の実態にあった工夫のできる動きを提示する。  
第2ステージは、《工夫》の時間。ここでは、小集団で動きのイメージをひろげたり、動きを工夫したりする。教師は、動きの工夫や話し合いの支援を行う。



仲よし学級 研究授業

第3ステージは、《共有》の時間。ここでは、友達が考えた動きの体験を通して、自分たちが考えた動きとの違いや、おもしろさを味わう。教師は、児童の気づきを伝え、新たな動きへの取り組みへと働きかける。  
《ワークショップ型の授業》  
この3段階のステージを柱とした学習形態を「ワークショップ型の学習形態を用いた体育の授業」として副主題に設定し、体づくり運動の領域で取り組んできた。単元を3段階のステージに分けて学習を展開することで、児童の探求心が育ち、すすんで運動に取り組む児童の姿が見られるようになってきた。  
《最後に》  
本研究に取り組んだ当初、聞き慣れない言葉や考え方に、戸惑いや不安も見られ、分科会でとことん考え、実践し、指導を受け、協議を重ねてきた。最初は、おぼろげだった研究の出口が少し見え始めてきたところである。研究の成果を発表するとは言え、まだまだ不十分であり、これからの全教職員の知恵と努力と行動で、本校の研究に、少しでも歴史を残すことができたい。ば幸いである。

わが校の特色ある教育 NO.39

地域のゲストティーチャーを  
活用した教育活動

府中市立府中第三中学校

主幹教諭 佐藤 秀一



二年生の「職場体験学習発表会」  
(ポスターセッションによる発表)の様子

1 はじめに

本校は、研究協力校として2年目の研究活動を行っている。主題は、「生徒の主體的な学びを高めるための授業づくり」であり、主な研究内容は、特別支援教育の視点に基づく授業改善、地域の人材を活用した授業づくりなどである。

2 昨年度の主なゲストティーチャー

- ・技術・家庭の「ものづくり」と「裁縫」には、地域の方。
- ・美術の「鑑賞」では、府中市

美術館学芸員の方。

・総合的な学習の時間の「農業体験学習」では、都立農業高校の教員及び生徒の方。

・通級指導学級の「読み聞かせ」には、地域の方。

1月には、ゲストティーチャーを招いた研究授業(総合的な学習の時間)を行い、保護者・地域の方々にも公開した。

・一年生：職業調べ学習

(各学級、5名の方々の来校)

・二年生：職場体験学習発表会

(班ごとのポスターセッションによる発表とハローワークの方の講評)

・三年生：生き方を考える

(学年全体、化学者の方が開発したバオプラスチックの実験と生き方の講話)

3 職業調べ学習(一年生)

(1) 指導計画

本校の総合的な学習の時間の学校テーマは『共生』であり、地域への帰属意識を育成し、自らの生き方を考えさせることが目標の一つである。

一年生の単元名「生き方学習」では、ゲストティーチャーの方々との体験的な学習を中心に置き、20時間の指導計画に基づき授業を展開した。

① 自らが生きるための必要なことを学ぶ。

② 自立して生きるために必要なことを学ぶ。

③ 職業観を養う。

指導内容は、10年後の自分を想像し、生き方や職業について考える、身近な人へのインタビューを行い、各学級で発表会を行う、調査結果はパソコンなどを活用してまとめる、などである。

評価の観点、学習への主体

性・創造的態度、課題設定、課題解決能力、学び方・物の考え方、自己の生き方である。

(2) 授業展開

来校していただいたゲストティーチャーの方々の職業は、漫画家、商社マン、弁護士、文化財造形保存技師、消防司令補レスキュー隊員であり、すべて地域の方々である。

各学級の生徒が、「一年〇組の〇〇です。お迎えにまいりました。」の出迎えから始まりました。教室の黒板には学習のねらいや内容の提示、座席はゲストティーチャーを丸く囲むなどの工夫が行われた。どの学級も授業の始めは緊張感が漂っていたが、しだいに雰囲気も和み、真剣な表情で話を聞き、ワークシートへ一所懸命にメモをとる姿が見られた。学習内容の「この人に学ぶ9テーマ」は、人物、中学時代、きっかけ、仕事生活、仕事内容、実演、喜びや悲しみ、信念、質疑、アドバイスであった。

(3) 授業後の感想

地域の方には、ゲストティーチャーを快く引き受けていただき、生徒の心にしみる、思いのこもった講話をしていただいた。

◎ 生徒の感想

・「印象に残ったことの一点目は、とにかくポジティブなところ、二点目は、自分に厳しいところ、三点目は、感謝の気持ちをお忘れないうことです。」

4 おわりに

身近な方の講話や技術に触れることは、生徒にとって印象深い体験であり、学ぶ意欲を高めることのできる学習活動である。本校では、今後も計画的・組織的に取り組んでいく予定である。



一年生の「職業調べ学習」(各学級)の様子



わが園の特色ある活動 NO.1

# 歯と口の健康づくり

## 親子歯みがき大会の実践から

府中市立小柳幼稚園

主任 新井 尚子

### 【はじめに…】

小柳幼稚園は、平成21・22年度の2年間にわたり、日本学校歯科医師会の依頼より「生活習慣病予防等を目指した歯・口の健康づくり調査研究事業」の推進指定園となった。幼稚園の指定は全国でただ一園である。

この研究は小柳幼稚園が中心となり、府中市公立幼稚園が一体となって進めることにより、多くの保護者に様々な指導、啓発活動への参加を促していく。一口に歯の健康というと、虫歯予防の歯みがきを想像してしまいがち、食育・体力・生活習慣



人形劇を夢中で見ている子どもたち

も考え指導していかねばならない。幼児期の健康は、親の責任の比重が高い、そのため好ましい生活習慣の確立は極めて大切である。しかし、保護者の意識には差があり、家庭生活における子どもの歯の健康への関心や維持管理に大きく影響していると考えられる。研究を通しては啓発に努め、成果をあげたい。

今回はアンケートを配布し、歯に対しての保護者の意識を探った。また、歯科衛生士による巡回歯科指導は年3回を予定した。第1回目は「親子歯みがき指導」として、子どもたちは歯みがき指導、保護者と一緒に赤染めと仕上げみがきを行った。また、今後は栄養士に弁当を見てもらおう栄養指導も予定している。

### 【取り組み】

幼稚園では、毎日弁当を食べた後に歯みがきをしている。初めはみがき方も不器用でなかなかうまくできないが、経験を重ね子どもたちは徐々にうまく

### 【歯みがき大会】

8月19日(水)グリーンプラザにて「歯みがき大会」を行った。夏休み中にもかかわらず、大勢の子どもたち、保護者が参加してくれた。

なってきた。

歯みがき指導も「手を洗う。」「うがいをする。」と同じように「食べたら歯ブラシ」の習慣化を目指している。

さて、今回の研究にあたり、年間指導計画を作成し取り組んでいる。年2回の親子歯科検診を行い、保護者は直接指導を受けたり、質問をしたりして、わが子の歯について知ることが出来る場となっている。

最初に小柳幼稚園歯科医師、石井先生による「歯のしくみについて」を〇×クイズを交えて行った。乳歯から永久歯に生えかわったり、6歳臼歯が生えてきたりと歯を身近に感じる時期でもあり、映像を見ながら、歯の役割やしくみについての話をしても良かった。

次の給食センターの栄養士によるペープサート「かみかみもぐもぐおいしいね」は、食に関して、栄養のバランスや噛むことで味わうことの大切さを、わかりやすく動きのある絵で話してくれた。

そして、保健センターの歯科衛生士からは、子ども向けにパネルシアターを使って、歯の大切さ(丈夫な歯、強い歯)を人形劇風に楽しく見せてもらった。そして、保護者向けとして、歯みがき指導や、赤染めの仕方を行い親子で一緒に経験し体験することが出来る場となった。

休憩を挟んでの後半は、始まる前に参加者に書いてもらった質問に回答をする、パネルディスカッションを行い、保護者からは

・ 歯が丈夫になる食べ物はあるか  
・ 永久歯がなかなか生えてこないがこのままで大丈夫かなどの疑問、不安を歯科医師の先生、栄養士、歯科衛生士からの回答をもらった。

子どもたちは今までより歯に対して興味、関心が強くなっている。そんな子どもたちに影響されて保護者の意識にも変化が表れてきた。

そして「家族まるごと」健康に向かって進められるよう、これからも新しい発見と工夫を試みながら進めていこうと思っ



保健センターの歯科衛生士より歯みがき指導

|               | 日 曜 | 研修会・委員会等   | 会 場         | 研 修 内 容 等   |
|---------------|-----|------------|-------------|-------------|
| 11月研修会・委員会等予定 | 2月  | 学校図書館推進委員会 | 教 育 セ ン タ ー | 報告書作成等について  |
|               | 2月  | 進路指導主任会    | 教 育 セ ン タ ー | 成績一覧表調査に向けて |
|               | 5月  | 第3回就学指導協議会 | 教 育 セ ン タ ー | 協議          |
|               | 9月  | 生活指導主任会    | 教 育 セ ン タ ー | 全体会、分科会     |
|               | 9月  | 特別支援学級代表者会 | 教 育 セ ン タ ー | 全体会、分科会     |
|               | 12月 | 環境教育推進委員会  | 教 育 セ ン タ ー | 全体会、小・中部会   |
|               | 17日 | 初任者等研修     | 市 内 学 校     | 先輩の様子を参観する  |
|               | 17日 | 人権教育推進委員会  | 教 育 セ ン タ ー | 全体会・分科会     |
|               | 24日 | 主幹教諭研修     | 教 育 セ ン タ ー | 講義「人材育成」    |
|               | 24日 | 食教育推進委員会   | 教 育 セ ン タ ー | 全体会、分科会     |
|               | 25日 | 図書館指導員研修   | 教 育 セ ン タ ー | 市職員によるおはなし会 |
|               | 26日 | 教務主任会      | 教 育 セ ン タ ー | 全体会、分科会     |



『萩の花 尾花葛花(おばなくずばな) 撫子(なでしこ)の花 女郎花(おみなえし)』また藤袴 朝貌(あさがお)の花』秋の七草は、山上憶良がこの歌で選定したと言われている。七草粥にして食べることで無病息災を願う春の七草とは違い、秋の七草は、鑑賞を目的として選ばれたものである。これは、秋の野に花が咲き乱れる野原を散策して短歌に詠むことに由来するそうだが、「七草」とすることにいくつかの「効用」があると思う。

### 「七草」の効用

野山に咲く花には、数多くの種類があり、それらの名前を覚えることは、決して容易なことではない。しかし、七草のように、その代表的なものを選ぶことにより、数多の草花を近くに引き寄せることができる。森羅万象は、「宇宙に存在するありとあらゆる事象」という意味であるが、七草は、この森羅万象から、「秋の代表的な七種類の草花」を「切り取った」ものであると言える。切り取った部分を覚えることができれば、次には、切り取っていない部分を覚えていけばよい。「切り取る」ことは、もの名前を覚える第一歩となる(第一の効用)。さて、一説によると、山上憶良はこの秋の七草を、子どもたちにも教えるために、指折り数えながら詠んだと言われている。「萩の花 尾花 葛花 撫子の花 女郎花」までを一方の掌の指を折りながら数え、「また」でもう一方の掌に移り、「藤袴 朝貌の花」で七種(ななくさ)となる。この様子は、秋の七草を詠んだ万葉集の別の歌『秋の野に 咲きたる花を 指折り(おゆびおり)かき数ふれば 七種の花』からも想像できる。ここには、聖武天皇の幼少時の教育に携わった教育者としての憶良の顔を垣間見ることができている。

ある数学者は、イギリスの子どもが草花の名前をよく知っていることを不思議に思い、その原因を探ると、どの子も母親から教えられていたことが分かったということを書いていた。親から子へ、先生から子どもたちへ。子どもにとって身近な大人が、子どもの目線に立ち、実物を目の前にしながら野の花の名前を教えるのであれば、これも七草の効用なのであろう。

(指導主事 長井 満敏)

### 学びの窓

#### 放課後子ども教室について②

児童青少年課青少年係長 鈴木 正憲  
平成19年度から試行的に小学校3校で始まった放課後子ども教室事業、平成20年度には小学校22校全校での実施となり現在に至っている。

活動の内容を少し紹介すると、自由遊びのほか、クラフト、読み聞かせ、サッカー教室などのプログラムを取り入れたり、また、学校の協力を得て、花壇づくりをしたり、プロ棋士による将棋教室を定期的に実施している教室などもあり、活動の幅が広がってきている。

さらに、各学校単位でPTA、地域の方、副校長先生などで組織している放課後子ども教室実行委員会では、主にイベントを企画・運営していただき、子どもたちに好評を得ている。

また、事業開始に伴い、夕方の子どものための帰宅の安全確保のため、放課後子ども見守りボランティアを募った。現在約170人の登録をいただいております。子どもたちの安全な帰宅の見守りをしていただいている。

本事業も子どもたちや地域に徐々に浸透してきているが、やはり学校の協力がなくては成り

#### あとがき

立たない。今後とも教職員をはじめとする学校関係者各位の協力を願うものである。

心戒十訓。①人を大切にすることは人から大切にされる②人間関係は相手の長所と付き合うものだ③人に何をしてももらえないよりも自分に何ができるかが大切である④仕事はいわれてするものではなく捜してするものである⑤仕事では頭を使え人間関係では心を使え⑥挨拶はされるものではなくするものだ⑦分かるだけが勉強ではない⑧分かることこそ勉強だ⑨どこを出たかではなく何ができるか⑩言葉で語るな心で語れ⑪いい人生はいい準備から始まる⑫ほかに、「健康十訓」「ならぬもの十訓」「つもりちがい十訓」等がある。これら十訓を日常の自戒、金言として受け止めたい▼「指導室だより」第71号(10月号)には、初任者等の記事を掲載した。府中市の教育を担う教師としての姿勢と情熱が伝わる言葉に期待が膨らんだ▼その思いや願いの実現には、何よりもまず学問に感動する心を教師自らが持つことが大切だ。一人一人の精進に子どもたちの未来を託したい。

(小澤 宏)